

全国有力100社
アンケート調査

やや弱気と横ばいで8割占める

1月の鉄スクラップ相場動向

全体(電炉、商社・シッパー、市中業者、全ての合計)の結果は、最も多かったのが「やや弱気」で43%、続いて「横ばい」が37%と、この2つの回答が大多数の8割を占めた。その他は「やや強気」が11%、「弱気」が6%、「強気」が3%となり、全体の約半分にあたる49%が弱気寄りの見方をしているという結果になった。一方の強気寄りも全体の14%にとどまった。

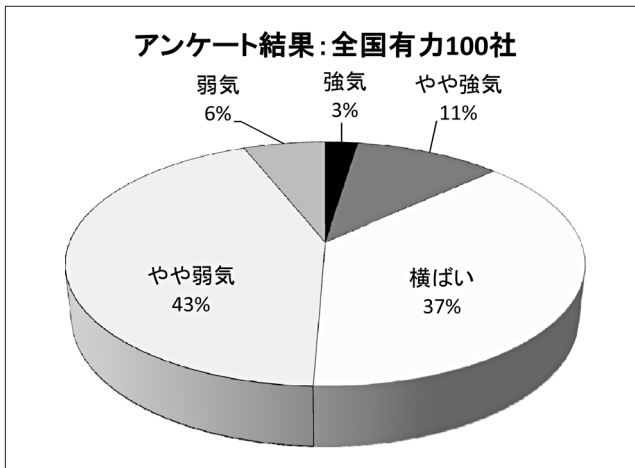
業種別に見ると、電炉メーカーは「やや弱気」が62%、続いて「横ばい」が38%と、このふたつのみで全体を占める結果となり、「やや弱気」と「強気」と「弱気」はゼロだった。商社・シッパーは「やや弱気」が40%、「やや強気」と「横ばい」がともに30%となり、この3つに比較的均等にまとまった。なお「強気」と「弱気」はともにゼロだった。市中業者については、「やや弱気」が40%で最も多く、続いて「横ばい」が僅差で続き39%となった。その他、「やや弱気」は10%、「弱気」は8%、「強気」は3%と、他業種に比べて回答は各気配に分散する結果となった。

地域別に見ると、東日本は「横ばい」が最も多く42%、続いて「やや弱気」が40%、「やや強気」が13%、「強気」が5%となった。「弱気」はゼロだった。中部・東海は「やや弱気」が最も多く53%、続いて「横ばい」と「弱気」が20%、「やや強気」が7%で、「強気」はゼロだった。西日本は「やや弱気」が最も多く43%、続いて「横ばい」が40%、「やや強気」が10%、「弱気」が7%で、「強気」は中部・東海と同様にゼロだった。総じて、中部以西で弱気傾向が多くなるという結果になった。

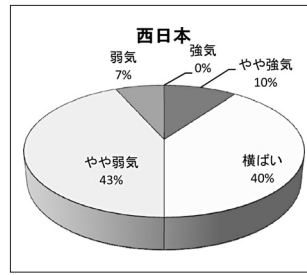
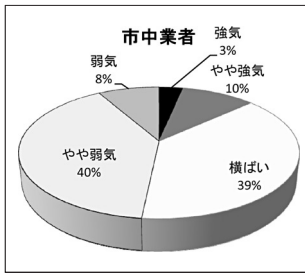
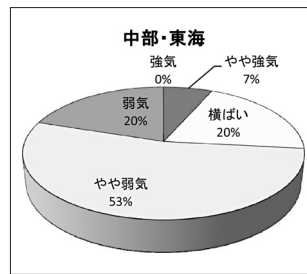
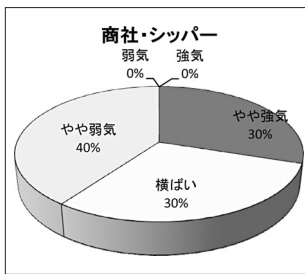
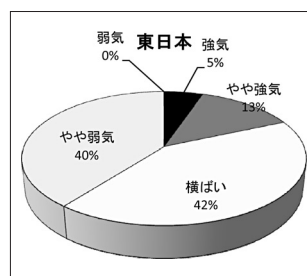
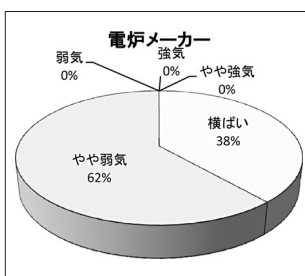
<個別コメント(一部)>

・直近の日本屑、輸出成約価格レベルなどから市況は若干下方へと予想

・年明けは、旧正月前まで韓国・中国向けの配船が再び活発化することが予想されるので、状況によっては強含みとなる可能性もある。



【全国有力100社アンケート調査概要】
 ■回答方法: 1月の鉄スクラップについて「値上がり」「強含み」「横ばい」「弱含み」「値下がり」から選択回答
 ■対象: 100社(業種別: メーカー12社、商社・シッパー16社、市中業者72社)(地域別: 東日本40社、中部・東海20社、西日本40社)
 ■調査期間: 12月26~28日
 ■回答率: 83%(東日本95.0%、中部・東海75.0%、西日本75.0%)



日刊市況通信社
全国有力100社アンケート調査

「今月の鉄スクラップ相場動向」 掲載開始のお知らせ

このたび本紙は、全国の電炉・商社およびシッパー・市中業者有力100社によるアンケート調査『今月の鉄スクラップ相場動向』を企画し、今月より結果を掲載する運びとなりました。ご協力いただいております関係者様に厚く御礼申し上げます。

今後は、毎月上旬に結果を本紙およびホームページに掲載いたします。当企画を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。